

たばこの煙を吸い込む喫煙で肺がんリスクは 3.3 倍

—日本の大規模症例対照研究—

欧州の集団においては、いくつかの研究でたばこの煙の吸入が肺がんリスクの増加と関連していることが示されている。そこで、日本の集団におけるたばこの煙の吸入と肺がんリスクの関係を明らかにするため、大規模な症例対照研究を実施した。

新たに組織学的に肺がんと診断された患者 653 人を症例群とし、対照群は病院対照の 453 人と地域対照の 828 人、計 1,281 人とした。年齢、性別、飲酒状況、果物や野菜の摂取量、肺がんの家族歴、職業、教育年数などの交絡変数を調整し、統計学的に分析した。その結果、非喫煙者に比べ、たばこの煙を吸い込まない喫煙者とたばこの煙を吸い込む喫煙者のオッズ比はそれぞれ 1.72、3.28 であった。喫煙経験者に限定すると、交絡因子と累積喫煙量を調整したオッズ比は、煙を吸い込む群では吸い込まない群に比べて有意に高かった（オッズ比：1.52、 $p=0.021$ ）。腺がん、扁平上皮がん、小細胞がん、その他の組織型のサブグループ解析においても、統計学的に有意ではなかったが、同様の傾向が認められた。

したがって、日本の集団においても、累積喫煙量にかかわらず、たばこの煙を吸い込むことが肺がんリスクとなることが示唆された。

出典：European Journal of Cancer Prevention. Published online before print June 6, 2014